



# 北海道作業療法士学会

## 小児訪問看護×WISC-V×他職種連携

小児訪問看護におけるICTとWISC-Vを活用した  
他職種連携モデルの構築と作業療法の可能性

訪問看護ステーションいろはす 大鐘悠歌1) 岩岡拓人2) 八重樫修人3)

### はじめに

#### I) 支援を要す児童数増加

- 通級児童→約10年前の2.5倍  
(文部科学省, 2022)

#### II) 専門機関の不足

- WISC-V等評価や療育の待機期間の長期化
- 心理検査を根拠とした個別・継続支援の困難さ

### 目的

- 根拠に基づく個別支援を職種間で共有する事による質の向上。
- 継続した協働支援の実践を報告し地域作業療法可能性を検討する事。

### 方法

- WISC-V等評価を実施OTが個別支援計画立案
- リハ場面の動画と共にICT (Googleスライド)で共有

※Googleスライドは法人版使用

＜疾患名＞自閉スペクトラム、注意欠陥多動性障害

＜特徴＞  
・不登校の原因不明だったが訪着後、いじめについて吐露あり。友人との関係は維持。フォートナイトのプレイロッド、プール等一緒に遊んでいる。中学は行きたい気持ちと怖さが葛藤中。  
・母「遊びながら気持ちを整理の仕方など学んで欲しい」  
・数字苦手。図画工作得意でレジンや樹脂粘土も作っていた。

・WISC 処理速度(76)、ワーキングメモリ(73)  
特に視覚的な指示理解と保持に苦手あり。視空間(94)のため代償手段として活用。

【運動面】  
体幹の筋力弱め。眼球運動は斜視が苦手。  
→ビジョントレーニング+バランス課題良いかも？

【感覚面】  
現時点では大きな異常なしと思われる。  
感覚を過剰に求めたり、避けたりする様子はない。  
動画やゲームへの依存はあると思われるが、訪問時ある程度我慢できていることもある。

【認知面】  
・処理速度、ワーキングメモリ項目に難。ゲーム内、苦手の聴取から視空間認知も取り入れたい。  
・社交性はあるが、他者をうまく頼れない部分あり。  
→気持ちを伝える練習や、紙に書き出すなどストリーミング法の習得支援も良いかも？

長期目標 ★学校に行きたいと思う回数が増える。  
短期目標 ★嫌なことを我慢しすぎず他者へ表現できる  
★家族と楽しむ時間が増え、相談しやすい環境が整う。

★感覚・運動面の苦手さ軽減、集中して取り組めるよう支援していく。ストレスへ対処できる。  
★非言語とゲーム好きを活かして、視覚・聴覚・運動・認知課題が可能であれば学習面にも繋げる。

・ご家族へ気持ちを吐露しやすいように、家族で遊べるグッズ、地域イベントを紹介・提案

・自分に合ったストレスコーピング方法や人間関係の中の困りごとの解決法を提案

→支援者の負担軽減からすれば良かったか一緒に考えてもらう等、ストレスを減らせているか、どう対応しているか確認し考えていく。

・色で前後左右へビヨーン！  
跳躍眼球運動+視覚認知  
+処理速度+ワーキングメモリ  
・タングラムパズル (3段階)  
A.図を見ながら予測し解く  
視覚認知  
B.答え見ながら作る  
C.何も見ず作る、競争  
ワーキングメモリ  
処理速度  
※2セットプレゼントしています

### 結果

#### I) 児童の特性と

能力の偏りが可視化

#### II) 動画共有により

看護師単独で再現可能

「根拠が明確になり  
自信をもって関われる」  
心理的障壁が減少



「不足している療育を  
訪問看護で補っていただき  
ありがとうございます」  
支援の一貫性確保



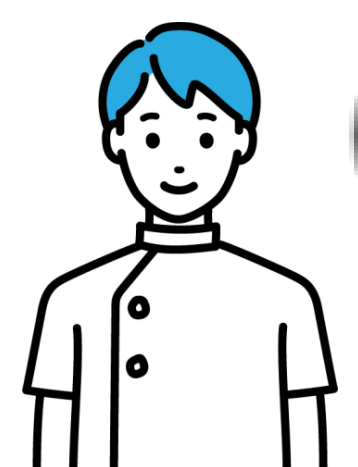
### 考察

#### WISC-Vの導入による支援の根拠化

##### WISC-Vの役割

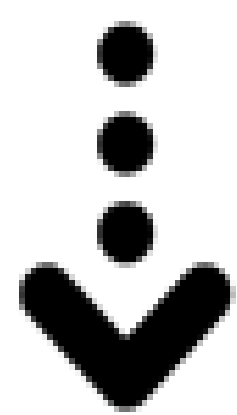
- 長期化している待機期間の解消
- 特性や能力の偏りが数値により可視化し根拠を明確にする事

※当社のWISCの結果を使用した公的機関での手続きは不可能。



(Becker, 2021)

認知的強みと弱みを把握する上で有用。  
個別支援・治療計画を立案する重要な基盤となる



本研究の結果と一致する。  
WISCを基盤とし、OTRが計画立案することで  
個別支援の根拠が明確化。NSの心理的障壁が減少し  
児童の特性への理解が深まった。

#### 知識と役割を共有しチームで支える協働モデル

##### トランスディシプリナリー・モデルの可能性

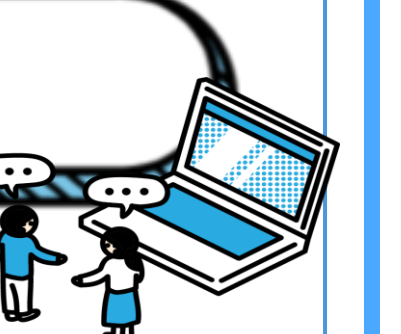
⇒専門職が枠組みを超えて知識や役割を共有し  
互いの強みを活かしながら支援する協働モデル



OTRによる評価



ICTによる情報共有



スライドや動画を確認し  
実際の訪問看護の場面で支援の一環として活用

- 情報共有を効率化。  
専門的評価を現場で即利用可能な知識へと変換。
- 医療的支援を基盤とするNSの視点+OTRの療育的視点  
⇒支援の質が向上。家族からの肯定的な評価を獲得。

今回の協業モデルにより  
NSの児童に対する特性理解を深め  
OTRの知見を他職種へ役割解放するという概念の  
トランスディシプリナリー・モデルの可能性を示したと考える。

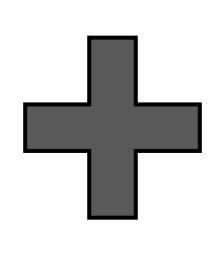
#### 今後の展望

#### AIセラピスト「co-mii」の導入



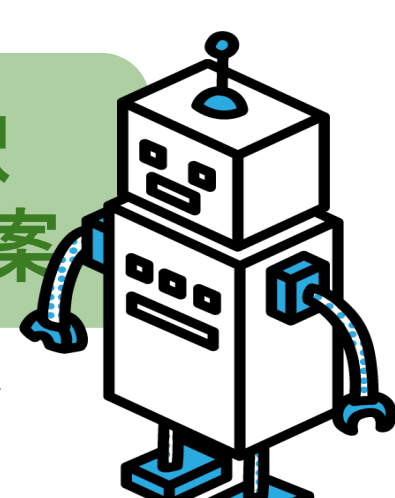
評価  
個別支援計画

OTR

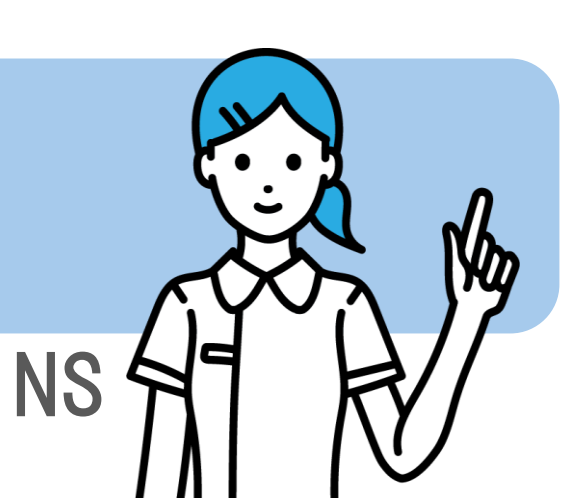


統合と解釈  
療育内容提案

AIセラピスト  
co-mii



NS自身が根拠に基づいた最適な支援を  
選択・実践できる体制を目指す。



NS

OTRの専門性とAIの補完性を融合させ、支援の質と他職種間での一貫性をさらに強固にしていく。